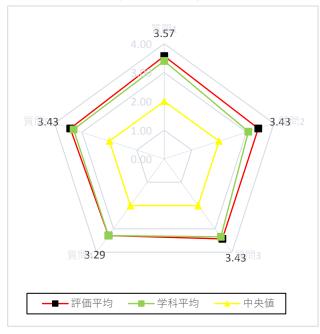
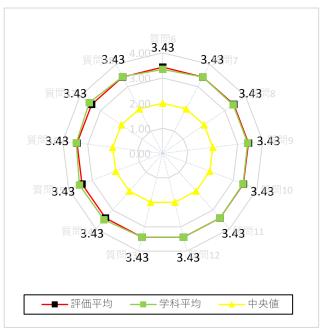
学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部 リハビリテーション学部	社会福祉 リハビリテーション		あすなろう I 基礎(初 年次教育含)	35名





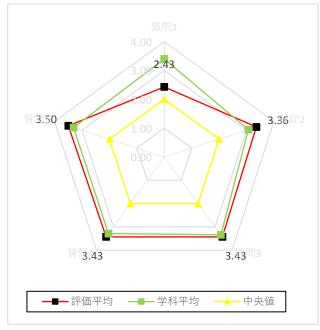
(2) 結果の分析と評価

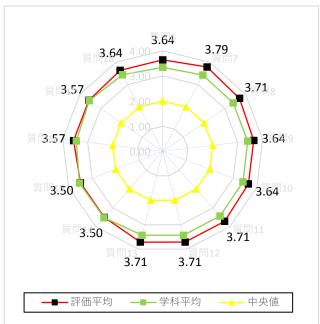
1年生の最初の学習内容として意義深いものになっていると思われる.

(3) 次年度に向けての取り組み

今後,より一層充実した学習機会を提供したい.

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		あすなろう I 基礎(初 年次教育含)	23名





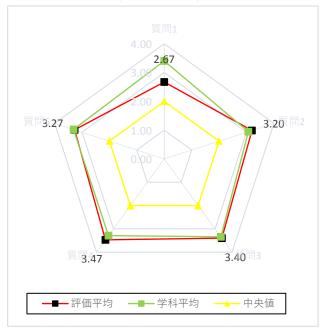
(2) 結果の分析と評価

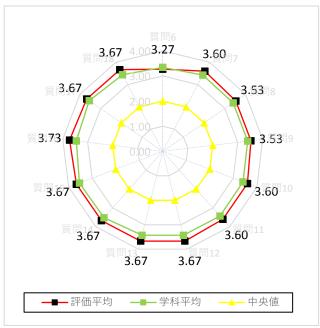
全体として約4と高い評価をいただいた。この結果を受け止め、今後も継続して授業の改善を行っていきたい。また、学生の自己評価を上げられるように改善、工夫をしていく。

(3) 次年度に向けての取り組み

継続して授業への取り組みを行う。学生の自主性を引き出すような関わり方を工夫する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		Basic English I	23名





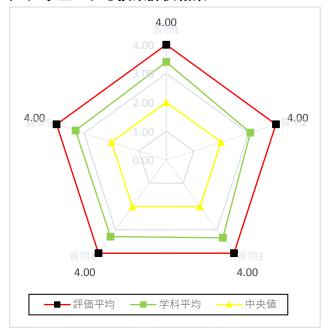
(2) 結果の分析と評価

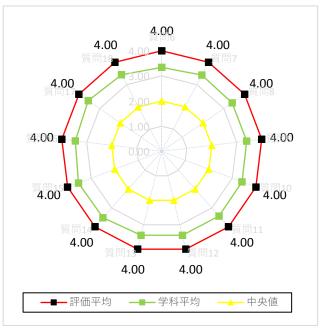
総合評価は3.51で67%の回答率でした。コメントありませんでした。学生は大変満足していると思われます。一点だけ気になるところありますが、シラバス活用しましたの点数が高いのにシラバスの説明ありましたかの点数が低いです。毎回最初の授業にて説明しますので、話を聞いてないのか覚えてないのかのどっちでしょう?

(3) 次年度に向けての取り組み

来年度さらに丁寧に説明して点数に反映なるよう頑張ります。ほかのところでは微調整で大丈夫だと思います。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		Basic English II	33名





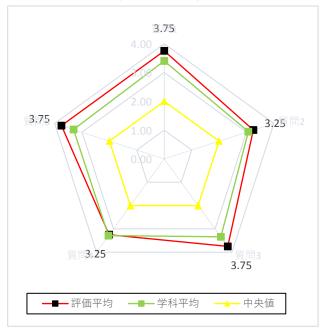
(2) 結果の分析と評価

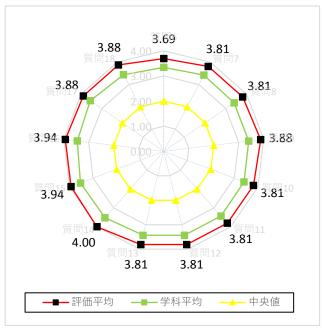
総合評価は4. 0満点で33人中2人の回答率でした。コメントありませんでした。学生は大変満足していると思われます。

(3) 次年度に向けての取り組み

来年度全員回答の満点取りたいと思います。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		Global English I	23名





(2) 結果の分析と評価

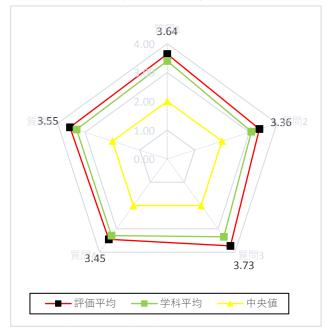
去年からテキストを変えました。したがってシラバスも変えました。学生の反応はよかったと思います。 質問1-5に関しては学生の授業に対する取り組みで評価がよかったと思います。学生の出席率、真剣に 取り組み姿勢や自己評価は平均並みでした。質問3に対して授業中の頑張りが見えた。しかし質問4に対 して理解するための工夫は平均並みだ。一方、総合評価が平均より高った。

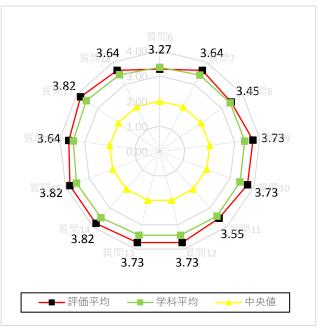
質問6-18に関しては、質問6は評価平均と同じで、ほかの答えは評価平均より少し下回る数字となりました。質問17で私の熱心さが伝わってよかったです。このクラスはとてもいいクラスで、教えやすかったです。

(3) 次年度に向けての取り組み

まずは、学生がこの評価を積極的にするように指導します。パソコンになってから、学生が回答したかどうかの確認が難しいと感じます。回答率が100%になったらいいデーターだと思われますので、100%を目指して回答してもらいたいです。次年度は回答するようのリマインドを行いたいです。データーを見ますと授業の内容ややり方を変える必要ないと思います。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		Global English II	34名





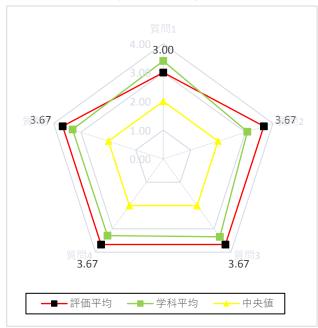
(2) 結果の分析と評価

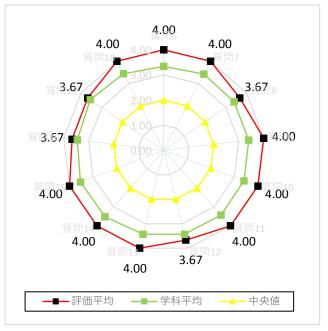
総合評価は3.63で33%の回答率でした。コメントありませんでした。学生は大変満足していると思われます。一点だけ気になるところありますが、シラバス活用しましたの点数が高いのにシラバスの説明ありましたかの点数が低いです。毎回最初の授業にて説明しますので、話を聞いてないのか覚えてないのかのどっちでしょう?

(3) 次年度に向けての取り組み

来年度シラバスの件について考慮したいです。全員の学生に答えてほしいです。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		栄養学	12名





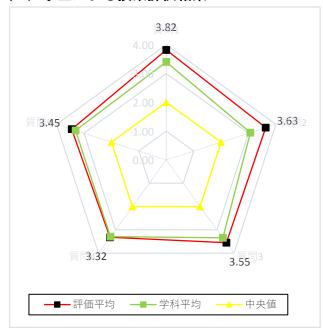
(2) 結果の分析と評価

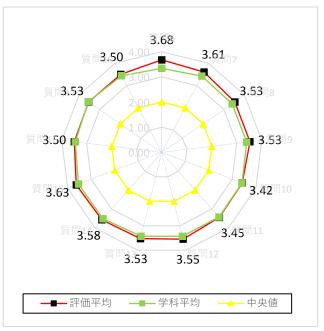
栄養学の授業評価においては、質問1を除き質問2から4までの学生自身の取り組みの項目、質問6から17までの教員の側の項においても、ほとんどが学科平均を上回っていた。この結果は、学生自身も関心が高くなく、興味を持ちにくい科目であるが、一定の理解を得たのかもしれないと感じる。栄養学はリハビリテーション学部の専門基礎科目の中の基本科目として選択科目となっている。前年度までにおいては、受講生が少ないために不開講であったと聞いており、リハビリを専門とする学生にとっては関心の薄い内容である。昨年度は思わしくない結果であったが、今年度は良い結果であったので、よかったと思う。

(3) 次年度に向けての取り組み

栄養学の授業評価においては、各質問項目のほとんどにおいて、良い傾向にあった。次回においてもテキストを用いずに、学生の興味や関心が高まること、管理栄養士と職場において協働していく上で役立つ知識を得られる内容にしていきたいと思う。映像などの視聴覚資料を取り入れ、パワーポイントや板書などにおいても、学生が作業しながら理解を深めていけるように工夫したいと考えている。職場において管理栄養士と協働するための基礎知識を得られるように、いっそう改善したいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		レクリエーション論	43名





(2) 結果の分析と評価

作業療法学専攻平均値と比較した結果、18項目中5項目の値が下回っていた。

平均値を下回った「視聴覚機器や板書の用い方は適切でしたか。」「教科書・配布資料等は役に立ちましたか。」については、本科目がレクリエーションの実技を中心とした内容であることが原因と考えた。

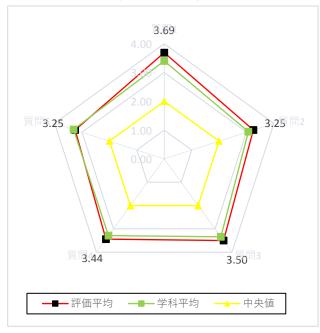
「教員は双方向的なやり取りをしながら、授業を行っていましたか。」「教員は熱心に授業に取り組んでいましたか。」については、素直に反省すべき点であると考える。 この授業を総合評価については、89%(34/38名)がよいと判断した。

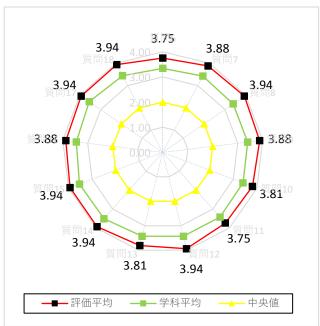
(3) 次年度に向けての取り組み

本講義は選択科目であり、理学療法学専攻学生も数名履修した。基礎的なベースが違うため授業遂行にやや支障をきたした。

今後は、実技中心ではなく理学療法学専攻学生にも分かりやすいように視覚的教材や教科書を使用したコマを増やしていきたい。また、次年度は上記の課題が改善できるよう授業の工夫等をさらに推進していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		体表解剖学実習	23名





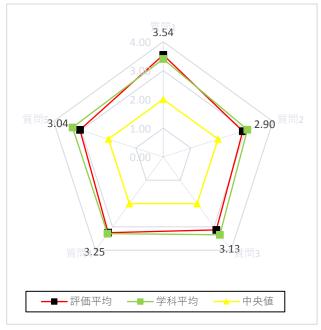
(2) 結果の分析と評価

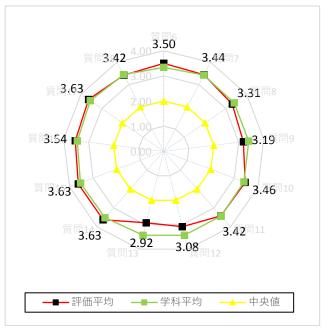
いずれも学科平均ないし平均以上のため申し分ないと考える. 人数も23名と少なかったため、比較的目の届く演習講義となったと考えられる.

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度開催は無い科目である.

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		生理学	61名





(2) 結果の分析と評価

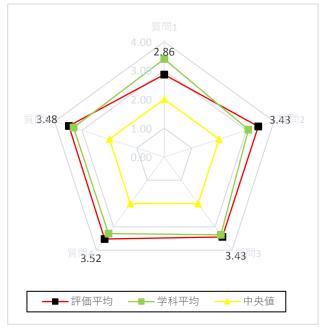
シラバスの活用が少なく、復習はできているが予習ができていないように思われ、教員からの促しが必要

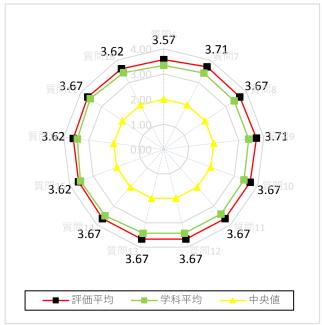
である。 昨年よりも遅いスピードで講義内容を進めたが、進み方が速いというコメント (1名) があったため、改善 する必要がある。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、シラバスに教科書のページ数を加えて予習をしやすく工夫した。 また、講義内容を学生の理解の速度に合わせた内容に変更し、より分かりやすい講義とする。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		生理学演習	50名





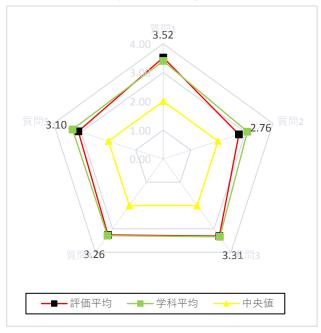
(2) 結果の分析と評価

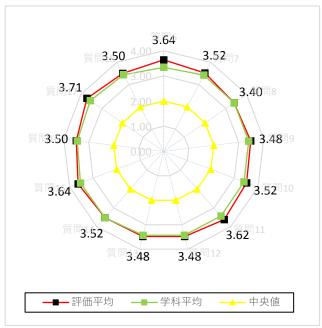
学生の興味を引くように講義に機器を持参して説明したり、実技を交えた講義展開をしたりと工夫したことが評価点の向上につながったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、シラバスに教科書のページ数を加えて予習をしやすく工夫する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		人間発達学	46名





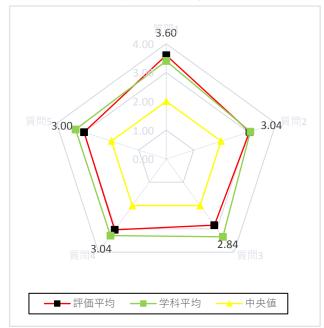
(2) 結果の分析と評価

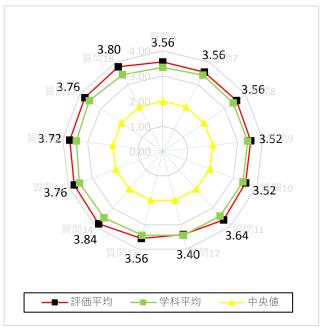
1年生前期必修科目であり、授業の進め方や板書、プリント活用など丁寧に説明したつもりであったが、シラバス(授業計画)を活用したかという問いに対して評価が低い結果となった。また、総合自己評価についても学科平均より低い結果となり、自己学習の援助や学習到達度が自分で把握できるような取り組みが次年度以降必要である。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度より専攻別の講義となる。今年度評価の低かったシラバスの活用については、初回講義時にシラバスを配布し説明を行っていきたい。また講義の進度によってシラバスに変更が生じた場合も随時修正を講義の中で伝え記入させるよう努めていく。また記述式の試験問題に苦労している学生が多くいたので、講義中も文章でまとめる機会を増やしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		運動学 I	27名





(2) 結果の分析と評価

質問1~5の内、質問3の「授業中に居眠り・私語をせずに真剣に取り組みましたか」や質問4の「あなたはこの授業を理解するために自分で何か工夫をしましたか」や質問5の「あなた自身の総合自己評価」は学科平均より低値である。

本科目は基礎専門科目であり、1年生にとっては難しい科目であるが、本授業に対する学生の取り組みの低さが解り、来年度は今まで以上、目的意識を持たせる工夫をしようと思う。

質問6~18の質問項目では、ほぼ学科平均、もしくは学科の平均を上回る内容であった。

学生は、高校までとは全く違う科目を受講し、更に講義のスピードが速いため、度肝を抜かされる。 そのため、噛み砕いた内容(解り易い内容)にして、例え話などを交えったりしたことがこの結果の理由 かもしれない。

学科専攻の平均以上であったため、教授方法としてはおおむね良好であったと推測している。

(3) 次年度に向けての取り組み

本科目は基礎専門科目であり、1年生にとっては難しい科目である。

多くの4年生や卒業生から「もっと真剣に学習しておけば良かった」「もう一度講義を聞きたい」「学んだ内容だけでは足らないと思った」などの感想を聞く機会があった。

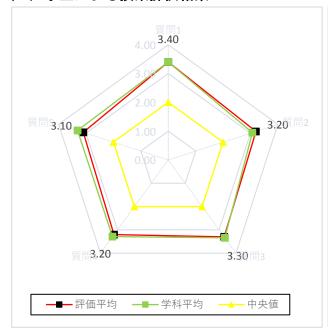
つまり、1年生の時点では本科目の重要性を認識できないことを意味していると思われる。

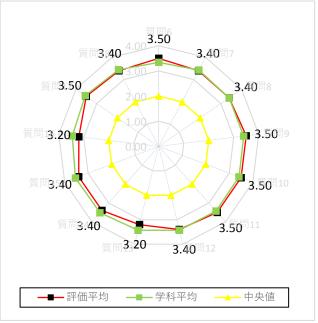
そのため、次年度は講義を今まで以上興味深い内容にブラッシュアップさせようと考えている。

視聴覚機器や配布資料及び板書の方法の改善を図り、より解り易い講義を心掛けていきたいと考えている。

更に、可能な限りアクティブラーニング形式で進めていきたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		運動学	25名





(2) 結果の分析と評価

質問1~5に関しては、やや学科平均を下回っていた.

講義内容の多い科目である一方で、講義時間数の問題で中間評価と期末評価の2回の試験のみであった。 そのため、各学生が自身の理解度の振り返りが困難だった可能性があると考える。

質問6以降に関しては、概ね学科平均か、学科平均をやや下回った解答であった.

とくに、質問13の「授業の進む速さは適切でしたか」が低く、運動学の講義内容の多さを反映していると考える。

また、質問14「学生の質問等に誠実に対応しましたか」については、実際の講義中に挙手での質問ほとんどが無かった。推察ではあるが、上記質問13の様に各学生は講義スピードが速いと感じているため、質問するタイミングを掴めない学生がいたのではないかと考える。そのため、質問のタイミングがつかめなかったことなどらか、質問16「教員は双方向的なやり取りをしながら、授業を行っていましたか」の回答も低かったのではないかと考える。

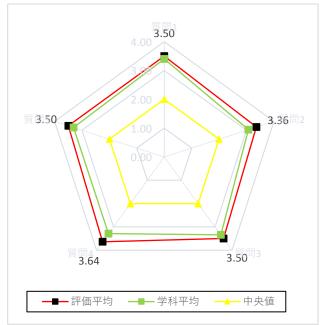
(3) 次年度に向けての取り組み

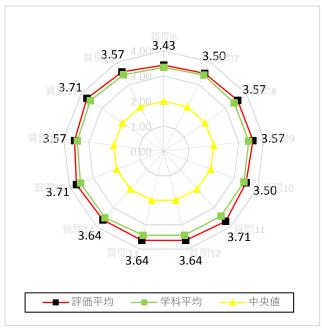
学生自身の学習状況の振り返りが容易となるように、適宜小テストを増やしていく. また、学修の要点を まとめるためのレポート課題なども検討していく.

さらに、講義スピードが速いと感じられないように、シラバスに追加して詳細な講義目録を提示することで、講義内容の全体像を把握しやすくなるように努めていく.

また. 学生が講義外でも質問を行いやすいように、質問用紙の配布や、メール等での質問受付についても強化していきたい.

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		運動学演習	29名





(2) 結果の分析と評価

質問1~5に関しては、講義欠席回数以外は学科平均を上回った.

欠席回数については1限目の講義であるためか「寝坊で欠席した」との声が聞かれていたため、その点が 影響していると考える.

また、質問4や5については特に高い評価を示しており、各学生の努力が半影されていると考える.

質問6~18については、概ね学科平均か学科平均を上回ることができた.

質問11「教科書・配布資料等は役に立ちましたか」、質問12「声の大きさ・明瞭さ・話す速さは適切でしたか」、13「授業の進む速さは適切でしたか」の項目については特に高評価を頂けている様子であり、シラバスに沿った講義展開などが奏功したと考える。

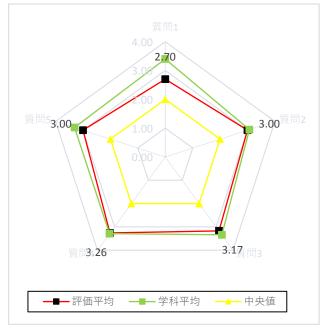
(3) 次年度に向けての取り組み

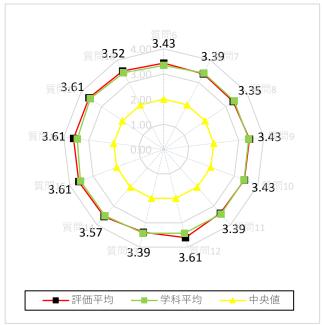
次年度はアンケート回答数をより向上させるために、15回目の講義などでアンケートへの回答を丁寧に促すようにしていく.

また、講義欠席者が増えないように、講義中に意識付けも継続していく.

令和2年度については、遠隔講義にて演習が実施できるように教材を開発していく予定である.

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		運動学Ⅱ	24名





(2) 結果の分析と評価

質問1~5の内、質問1の「授業は何回欠席しましたか」や質問3の「授業中に居眠り・私語をせずに真剣に取り組みましたか」や質問5の「あなた自身の総合自己評価」は学科平均より低値である。

本科目は基礎専門科目であり、1年生にとっては難しい科目であるが、本授業に対する学生の取り組みの低さが解り、来年度は今まで以上、目的意識を持たせる工夫をしようと思う。

質問6~18の質問項目では、ほぼ学科平均であった。

学生は、高校までとは全く違う科目を受講し、更に講義のスピードが速いため、度肝を抜かされる。 そのため、噛み砕いた内容(解り易い内容)にして、例え話などを交えったりしたことがこの結果の理由 かもしれない。

学科専攻の平均程度であったため、教授方法としてはおおむね良好であったと推測している。

(3) 次年度に向けての取り組み

本科目は基礎専門科目であり、1年生にとっては難しい科目である。

多くの4年生や卒業生から「もっと真剣に学習しておけば良かった」「もう一度講義を聞きたい」「学んだ 内容だけでは足らないと思った」などの感想を聞く機会があった。

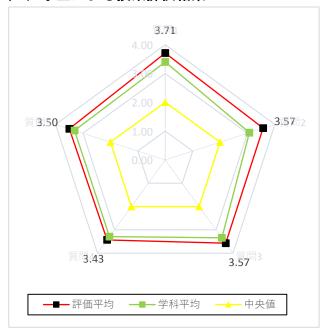
つまり、1年生の時点では本科目の重要性を認識できないことを意味していると思われる。

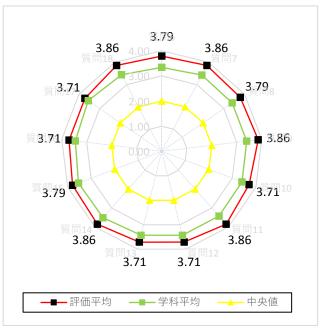
そのため、次年度は講義を今まで以上興味深い内容にブラッシュアップさせようと考えている。

視聴覚機器や配布資料及び板書の方法の改善を図り、より解り易い講義を心掛けていきたいと考えている。

更に、可能な限りアクティブラーニング形式で進めていきたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		運動学実習	37名





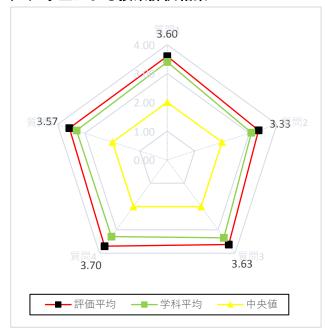
(2) 結果の分析と評価

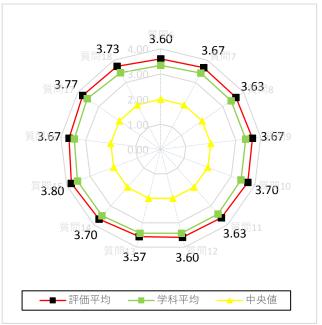
運動学実習の総合評価の結果は 3.86 ± 0.36 点/4点(14/37人、回答率38%)であった。評価が低かったのは質問 4「あなたはこの授業を理解するために自分で何か工夫をしましたか」 3.43 ± 0.85 点/4点であった。評価が高かったのは、質問 7「教員は授業の到達目標を明確にして、授業を展開していましたか」、質問 9「授業は分かりやすくする工夫がされていましたか」、質問 1 「教科書・配布資料等は役に立ちましたか」、 3.86 ± 0.36 点/4点であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

1. 授業の目標、2. 分かりやすくするための工夫、3. 理解を助ける配布資料、での評価が高かった。授業の目標や意図が伝わっていたことがわかる。一方で、5名の学生が「学生自身が理解するための工夫」が不十分だったと回答している。授業時に写真撮影や動画撮影を許可して、受講後に作成するレポートに役に立つように工夫をしてみる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		内科学 I	68名





(2) 結果の分析と評価

全体的に学科平均またはそれを上回る結果を得ており、良好であった。

内科学Iは総論であり、リハビリテーション学科2年生において初めての臨床医学系科目の一つであるため、学生にとって難易度は高いと考えられる。 そこで前期は、1年生で学んだ生理学・解剖学・公衆衛生学などの知識を確認しながら、ゆっくり丁寧に進

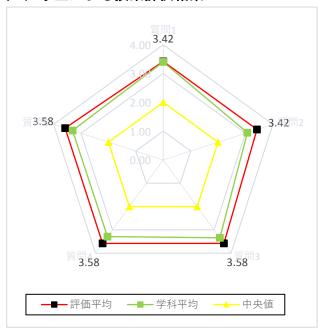
行するよう努めている。

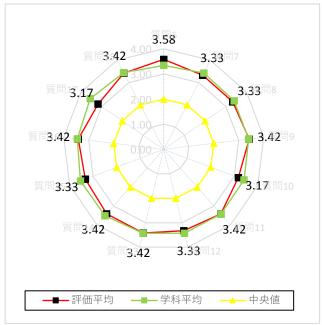
医学専門用語に慣れさせるとともに、小テストによる確認作業を丁寧に実施した。学生一人一人が授業に 参加し考える習慣をつけてもらうために、学生にもテキストを音読させたり、小テストの答えを発表さ せ、間違えることを恐れずに発言するよう助言した。

学生の受講態度は真面目であり、クラスとしての雰囲気も良好であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		内科学Ⅱ	67名





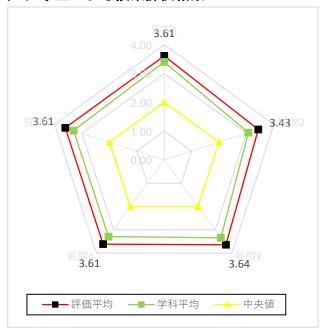
(2) 結果の分析と評価

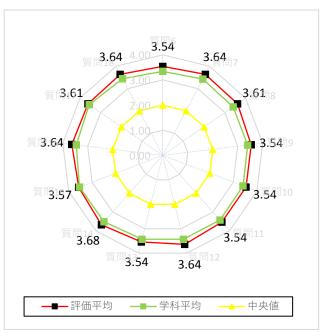
一部の質問において学科平均を若干下回るものがあるため、今後の課題として捉えておきたい。 内科学II (後期) は各論となるため難易度は前期よりも高くなるが、臨床や国試における主要疾患につい て判りやすい説明を心がけつつ、

授業中の応答や小テストの状況を把握しながら、学生の能力を高める授業となるよう配慮したつもりであ る。 学生の受講態度は真面目であり、クラスとしての雰囲気も良好であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		整形外科学 Ⅰ	68名





(2) 結果の分析と評価

ほとんどの質問において、学科平均程度または若干上回る結果を得ており、良好である。

整形外科学IIは総論であり、リハビリテーション学科2年生において初めての臨床医学系科目の一つであるため、学生にとって難易度は高いと考えられる。

そこで前期は、1年生で学んだ生理学・解剖学・公衆衛生学などの知識を確認しながら、ゆっくり丁寧に進行するよう努めている。

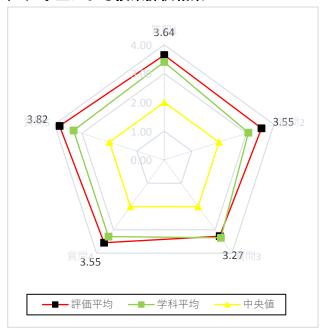
医学専門用語に慣れさせるとともに、小テストによる確認作業を丁寧に実施した。学生一人一人が授業に参加し考える習慣をつけてもらうために、学生にもテキストを音読させたり、小テストの答えを発表させ、間違えることを恐れずに発言するよう助言した。

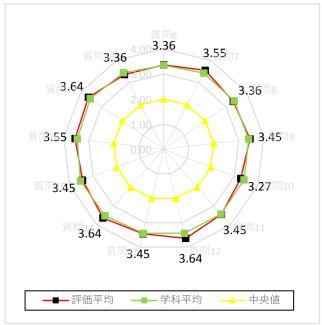
学生の受講態度は真面目であり、クラスとしての雰囲気も良好であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も学生一人一人の特性を把握するように努めつつ、クラス全体として学力を伸ばしていけるように、心がけていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		整形外科学Ⅱ	67名





(2) 結果の分析と評価

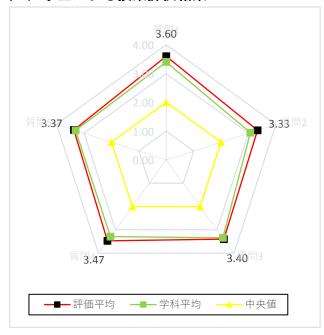
ほとんどの質問において、学科平均程度または若干上回る結果を得ており、良好である。

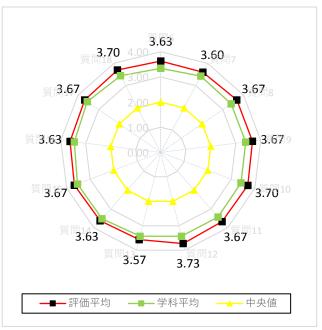
整形外科学II(後期)は各論となるため難易度は前期よりも高くなるが、臨床や国試における主要疾患について判りやすい説明を心がけつつ、

授業中の応答や小テストの状況を把握しながら、学生の能力を高める授業となるよう配慮したつもりであ る。 学生の受講態度は真面目であり、クラスとしての雰囲気も良好であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		神経内科学 I	68名





(2) 結果の分析と評価

ほとんどの質問において、学科平均程度または若干上回る結果を得ており、良好である。 神経内科学Iは総論であり、リハビリテーション学科2年生において初めての臨床医学系科目の一つである ため、学生にとって難易度は高いと考えられる。

そこで前期では、1年生で学んだ生理学・解剖学・公衆衛生学・運動学などの知識を確認しながら、ゆっく り丁寧に進行するよう努めた。

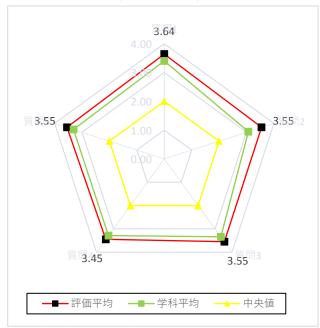
DVD動画を2回ほど活用し、学生の理解を助けるよう工夫した。

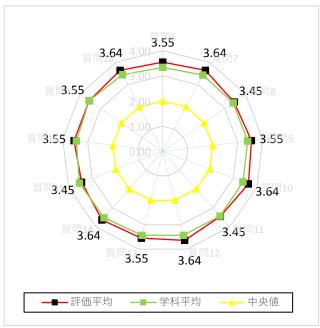
医学専門用語に慣れさせるとともに、小テストによる確認作業を丁寧に実施した。学生一人一人が授業に 参加し考える習慣をつけてもらうために、学生にもテキストを音読させたり、小テストの答えを発表さ せ、間違えることを恐れずに発言するよう助言した。

学生の受講態度は真面目であり、クラスとしての雰囲気も良好であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		神経内科学Ⅱ	67名





(2) 結果の分析と評価

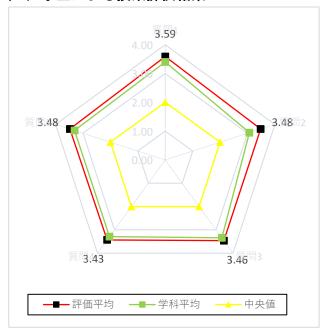
ほとんどの質問において、学科平均程度または若干上回る結果を得ており、良好である。

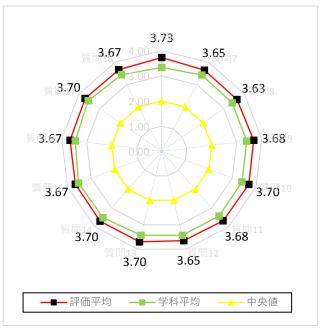
神経内科学II(後期)は各論となるため難易度は前期よりも高くなるが、臨床や国試における主要疾患について判りやすい説明を心がけつつ、

授業中の応答や小テストの状況を把握しながら、学生の能力を高める授業となるよう配慮したつもりであ る。 学生の受講態度は真面目であり、クラスとしての雰囲気も良好であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		画像診断学	72名





(2) 結果の分析と評価

質問1から18までの全て項目で学科平均もしくは、やや平均以上の結果であった。

本科目は国家試験に出題される画像に特化した科目である。

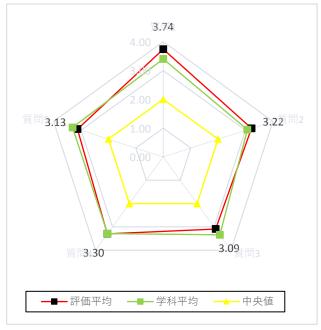
そのため、国家試験で出題された画像を講義に使用したことで、学生は解り易く興味深く聴講できたのではないかと思われる。

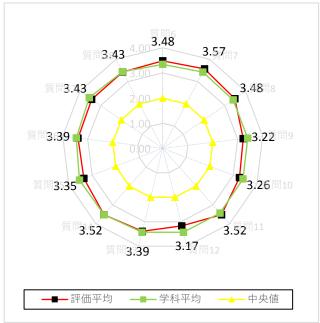
また、使用したテキストは、5冊の書籍から吟味して選択したため、とても解り易い教科書であったことが、この結果に表れていると思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は今年度の国家試験に出題された画像も加えた講義資料にしたいと考えている。 また、可能な限りアクティブラーニング形式で進めていきたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		リハビリテーション概論	24名





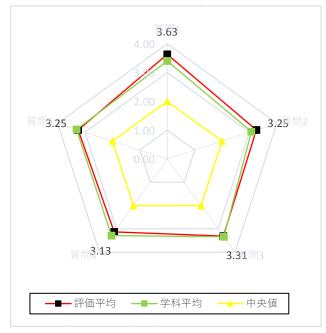
(2) 結果の分析と評価

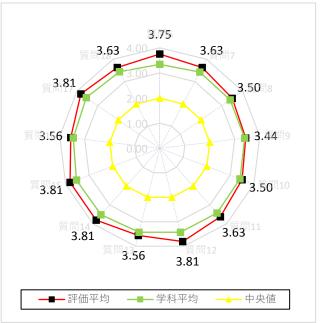
専門科目であるにもかかわらず、概論という科目の性格上、広く浅い内容にならざるを得ないため、学生のニーズに応えきれていない思われる。また、教員の声質がモノトーンであることも低い評価につながっているかもしれない。

(3) 次年度に向けての取り組み

メリハリのある、抑揚を強調した声で講義を実施する.

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		リハビリテーション概論	25名





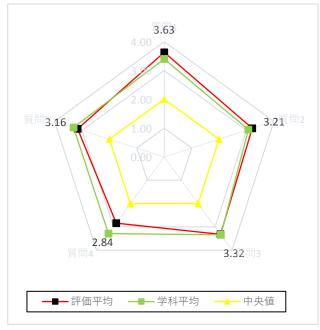
(2) 結果の分析と評価

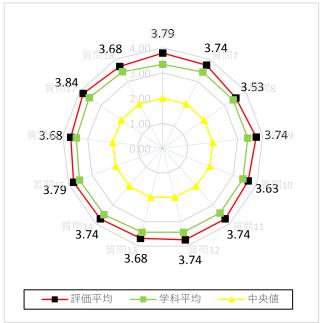
今回,講義内容の充実を図る目的で,一部より専門性の高い先生方への講義をお願いした.今後,専門分野の内容のについてより理解を深める必要があると思われる.

(3) 次年度に向けての取り組み

シラバスの適切な作成とその利用・応用に取り組んでいきたい。また、授業での理解を深めるように工夫をしていく予定である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		作業療法学概論	26名





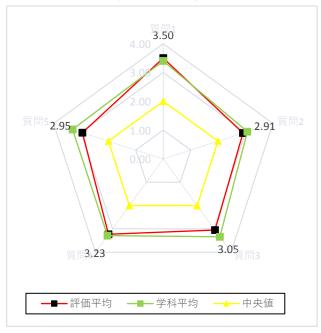
(2) 結果の分析と評価

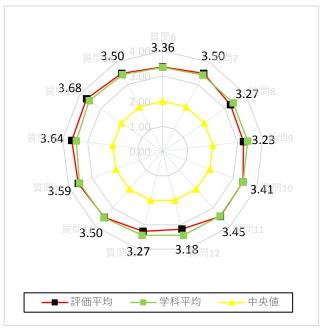
授業を理解するための自分の工夫や自己評価、および授業への興味・関心への工夫については今後さらなる工夫が必要であると考える。また、授業を分かりやすくする工夫などについても引き続き務める。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業を理解するための自分の工夫や自己評価、および授業への興味・関心への工夫については次年度以降にさらに評価が高まるように工夫する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法学概論	23名





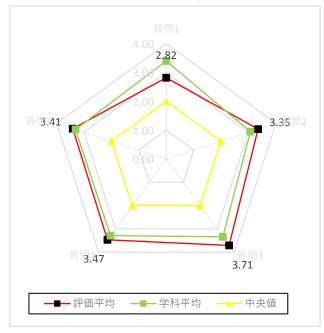
(2) 結果の分析と評価

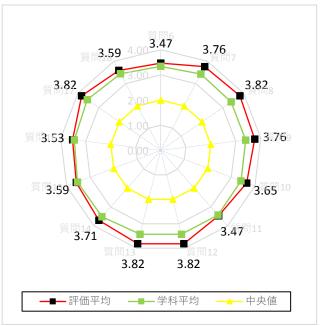
リハビリテーション概論と同様、声の大きさの評価が低くなっている。原因の一つとして教員が「耳管開放症」という疾患を有するため、自分の声を客観的に聞くことができないことがある。折に触れ学生に確認しているが、不十分なのであろう。

(3) 次年度に向けての取り組み

小講義室であろうとも必ずマイクを使用し、自身の声を客観的にとらえながら、学生の反応も確認しながら授業に取り組む.

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		基礎理学療法学	23名





(2) 結果の分析と評価

1. 回答率は73.9%(17名/23名).

回答率については一定の評価ができる. しかし、本調査委に関して、再三学生の協力を求めている現状を勘案すると決して高くは評価できな い.

- 2. 総合評価 (質問18) で「やや不満」と回答した学生1名.
 - 「自由記述」にコメントがないため分析・評価は困難である.
- 3. 「不満」回答:「教科書·配付資料等」で1名.

「教科書」: 2年次の必修科目で使用する教科書を指定しているため、本科目での学びが直接的な予習に なるように配慮している.

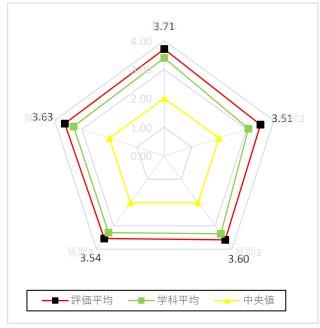
「配付資料」:オリジナル資料(書き込み可能な重要事項の一覧)を作成して初回講義時に配布し、予 習を促している.

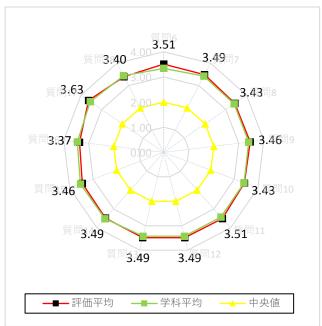
一方、学生の不満の詳細は「自由記述」にコメントがないため分析·評価は困難である。

(3) 次年度に向けての取り組み

- 1. 回答率の向上に努める.
- 2. 「総合満足度」を改善する.
- 3. 教科書指定についての説明および配付資料の使用方法についての説明時間を拡大する.

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法学研究法	37名





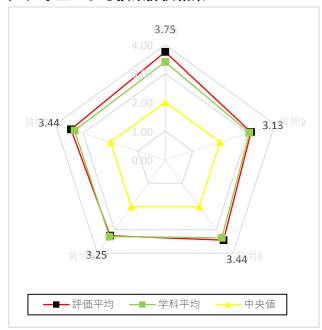
(2) 結果の分析と評価

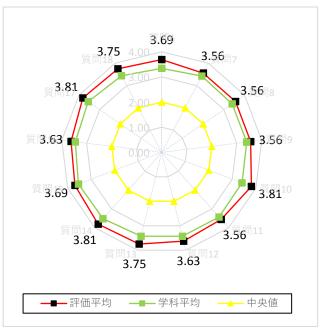
本年も全項目で学科平均を上回った。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も疫学に関するデータ解析を演習させながら知識を増していく講義を行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		園芸論	25名





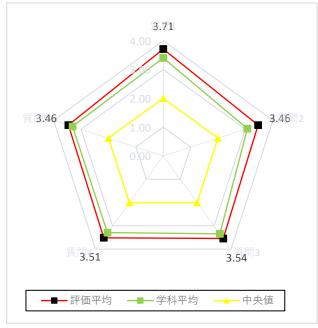
(2) 結果の分析と評価

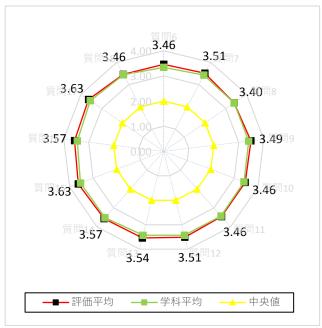
シラバスには記載しているが、天候による講義順番の変更などで混乱を招いた部分があるようだ。

(3) 次年度に向けての取り組み

シラバスへの記載をより徹底したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		園芸療法実習	45名





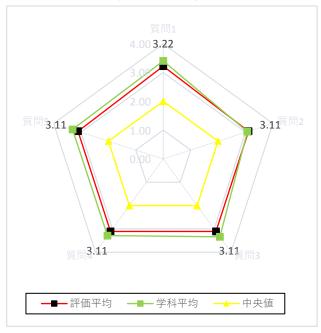
(2) 結果の分析と評価

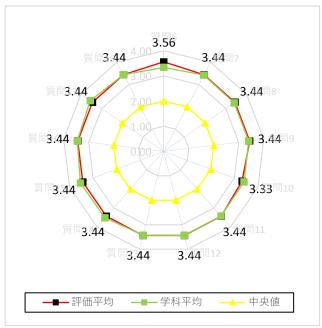
自ら取り組むアクティブラーニングとして、学生さんからも受け入れて頂いている。 非常勤講師の池田明子先生佐佐木景子先生の講義は市民からの聴講の希望がある。

(3) 次年度に向けての取り組み

アクティブラーニングの部分をより強化していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		園芸療法論	26名





(2) 結果の分析と評価

客員教授の非常勤講師を含めたバラエティーに富んだ講義内容は、他の講義ではまねのできない経験として学生の人間力や社旗人基礎力の向上が見込まれる。その一方で、1年生の学生にとっては、本講義の自然なコミュニケーション能力の向上などのトータルの意義が十分に理解できないという背景も考えられる。

予習復習の際には、日ごろの自然に対する感性に関する課題を出しているため、その意義の理解が不十分な学生がいた可能性が否めない。全体的には、個別の評価・レポートも順調に対応する学生さんがほとんどであり、個別の講義は充実していると評価されていると考えられた。

PowerPointによるプレゼンテーションと、アクティブラーニングによる講義であるため、質問10は質問内容自体が本講義に即していないものと考えられた。

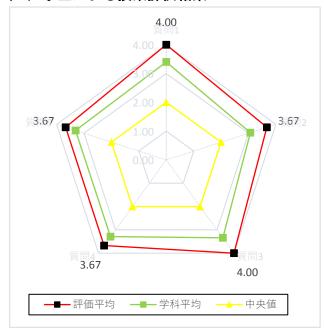
(3) 次年度に向けての取り組み

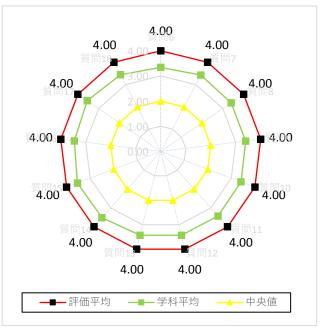
客員教授の非常勤講師を含めたバラエティーに富んだ講義内容は、他の講義ではまねのできない経験として学生の人間力や社旗人基礎力の向上が見込まれるため、できる限り学生さんの興味を引き付ける内容の講義を継続したい。

自然なコミュニケーション能力の向上などのトータルの講義の価値Bについては、高学年になるまで理解できない学生さんもいると思われることから、アクティブラーニングやディベートの」時間をさらに増やすことで、より低学年での意識の向上を促すことができる講義としてブラッシュアップする。

PowerPointによるプレゼンテーションと、アクティブラーニングによる講義であるため、質問10は質問内容自体が本講義に即していないものと考えられた。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法学研究法演習	37名





(2) 結果の分析と評価

- 回答率は8%(3名/37名)である。
 回答率が極めて低い。
- 2. 自由記述への書き込みはない. 「分析・評価」は困難である.

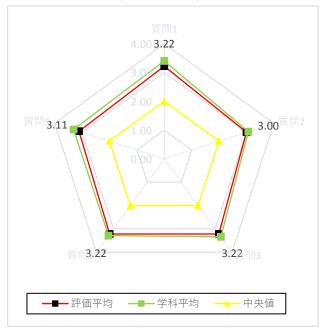
(3) 次年度に向けての取り組み

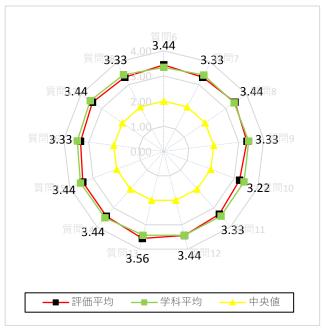
「理学療法研究法演習」は3年後期に開講されるゼミ単位での活動である. 学生は所属ゼミを自ら選び, 主体的に参加して4年時後期に開講される「卒業研究」に備え, 論文を完成させる.

従って、本科目「理学療法学研究法演習」を学生が評価するにあたり、本授業評価に設定されている一般的な質問項目(評価項目)は相応しいとはいえない、その事が学生の参加度を低下させている一因とも考えられる。

一方,「理学療法学研究法演習」は「卒業研究」とともに少人数単位で,どちらかといえば閉鎖的な環境で実施される科目であることから、本授業評価とは別に個別の評価方法を検討する必要がある.

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		ガーデニング	25名





(2) 結果の分析と評価

関連授業との連続講義という形態であったためか、本科目としての予習復習が不明確になる傾向が感じられ、学生評価もやや低めとなっているようである。

居眠りや私語は座学では少なかったが、自由意見を出し合いながらのアクティビティ講義の際の会話も 私語と捉えた学生さんが多くいたようである。実際には、語幹からの知覚刺激を脳に伝えながらの実践的 講義であるため、そのような会話は必要であるため、講義中にそのことを明確に伝えておく必要があった ものと判断される。

本講義は、PowerPointを活用した座学と、アクティブラーニングとしての室内外の活動で成り立っているため、質問10の回答はわからないとする学生さんが多かったものと推測された。

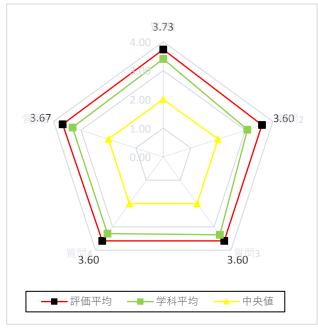
双方向的なやり方を工夫したつもりであるが、学生の評価が低いため、今後さらなる工夫が必要であろう。

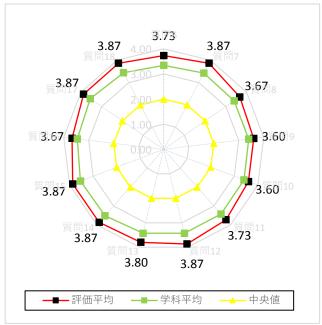
(3) 次年度に向けての取り組み

シラバスには記載している内容であるが、予習復習のやり方をわかりやすく明示することを講義内で実施することとする。そのことにより、季節感などガーデニング講義で身に着けて頂きたいリハビリテーションで応用可能な考え方や取り組みを、さらに理解してもらえるのではないかと考える。

退屈する学生は一人もいなかったが、より積極的に意見を出し授業に参加できるように、ガーデニング 実践活動などのアクティブラーニングやディベートの講義を強化していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法評価学 I	37名





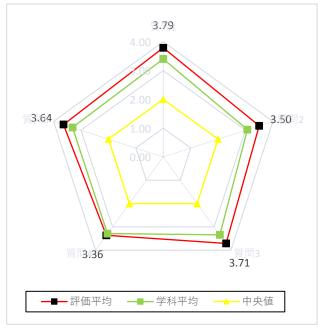
(2) 結果の分析と評価

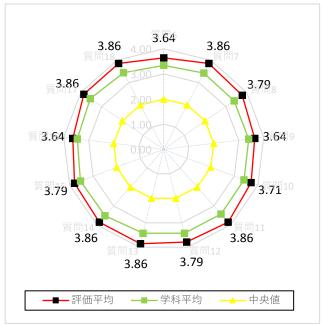
すべての項目において学科平均より高い結果であった。15コマの授業で習得すべき内容の多い授業であるため、教員と学生の双方向的なやりとりが難しくなる場面もあったが、学生が興味を持ち集中して授業に取り組めるよう次年度以降も工夫したい。また自己学習が欠かせない科目でもあるため、授業で分からないことや実技で不安のある部分などを援助していける取り組みを行っていくべきである。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業評価を提出するよう声掛けを確実に行っていく。自己学習が行いやすいような資料を準備することや 事後学習についてのフォローにも取り組んでいきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法評価学Ⅱ	37名



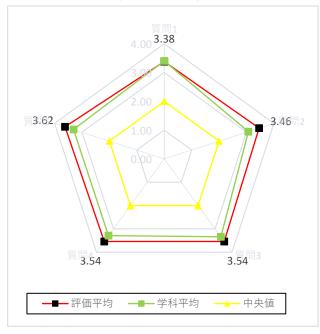


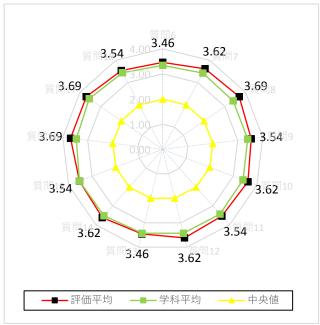
(2) 結果の分析と評価

(3) 次年度に向けての取り組み

授業評価に回答した学生は概ね満足している結果が得られた。評価が低かったのは「あなたはこの授業を理解するために自分で何か工夫をしましたか」3.36±0.93点/4点であった。受講後に学びを深めるための学修に役に立つように、文献の紹介や動画の紹介を行うことにする。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法評価学実習	37名





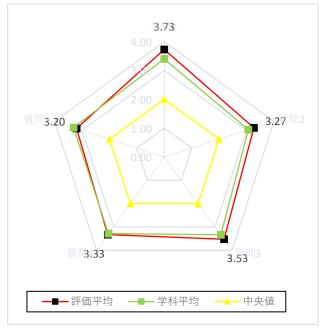
(2) 結果の分析と評価

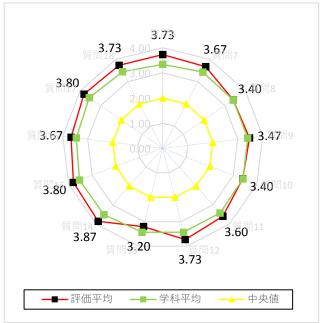
理学療法評価学実習の総合評価は3.54 \pm 0.66点/4点(13/37人、回答率35%)であった。概ね学科平均値と同様の結果であった。評価が低かった項目は、質問 1 「授業は何回欠席しましたか」3.38 \pm 1.12点/4点であった。評価が高かった項目は、質問 8 「授業は興味・関心が持てる工夫がされていましたか」、質問 1 6 「教員は双方向的なやり取りをしながら、授業を行っていましたか」、質問 1 7 「教員は熱心に授業に取り組んでいましたか」、3.69 \pm 0.48点/4点であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

実技を交えた講義であり、習熟度により授業計画を変更することがあった(質問6)。授業計画を変更した際は特に丁寧に予習復習計画を含め説明を行っていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		物理療法学	37名





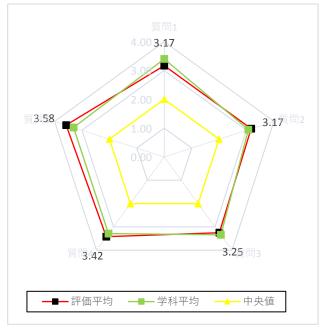
(2) 結果の分析と評価

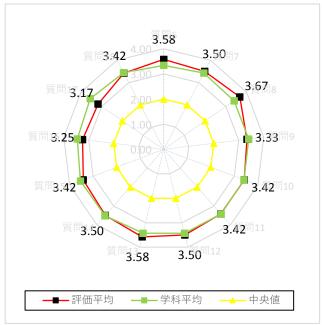
授業評価にご回答いただきありがとうございました。総合評価3.56と平均値より高い評価をいただきましたが、質問13.16では、低い評価もありました。今後は、講義時には学生とのやり取りを行いながら、学生の理解度を考慮し講義を進められるように改善していきます。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生の理解度に合わせて学修材料、講義内容の改善を行います。学生が興味関心が持てるように、症例紹介を用いるなど講義内容を工夫します。講義中は学生の反応や質問など十分に把握できるように、学生とやり取りをしながら講義を進めていきます。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		物理療法学実習	37名





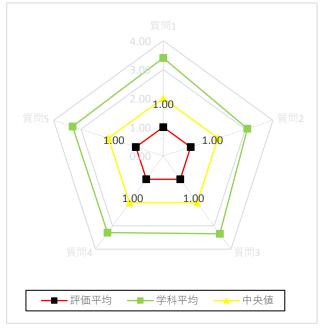
(2) 結果の分析と評価

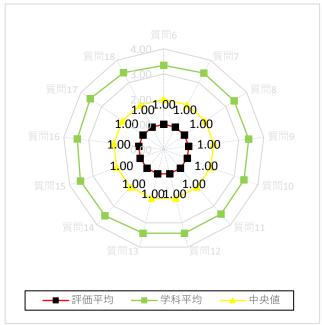
全体的に3.5前後の評価をいただいた。この授業は実習形式であるため、学生の主体性を引き出すように工夫を行ったが、学生に伝わりにくい部分があったかと反省した。また機器の操作など授業中にトラブルなどあったため、機器の取り扱いについてもう少し準備を行う必要があった。この結果を受け止め、次回の授業はより学生が積極的に参加できる授業構成に改善していきたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業中に機器のトラブルが起こらないよに準備する。 学生参加型のアクティブラーニングの手法を改善し、学生が楽しく積極的に学べる構成にする。 教員の熱心さが伝わる工夫を行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		作業療法総合演習	29名





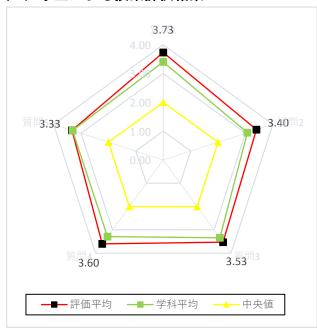
(2) 結果の分析と評価

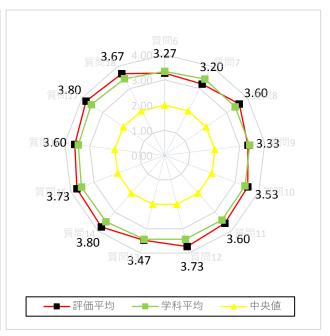
時にありません.

(3) 次年度に向けての取り組み

今後の講義に活用したい.

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		運動療法学	37名





(2) 結果の分析と評価

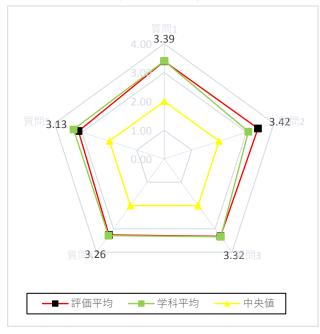
- 1. 回答率が40.5%(15名/37名)と極めて悪い.

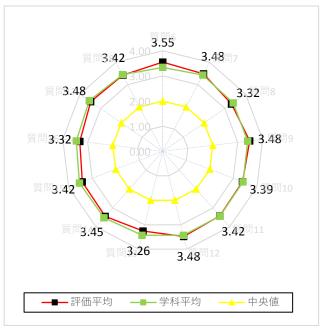
- 2. 自由記述は1件(授業中の居眠りに関する反省の弁)のみ. 3. 不満回答:質問 1, 6, 7, 9, 10に各1名. 4. やや不満:質問 2 (4名), 3 (1名), 5 (2名), 6 (2名), 7 (1名), 8 (1名), 9 (1名), 11 [1名], 12 [1名], 13 [2名], 15 [1名), 16 [1名], 18 [1名].

(3) 次年度に向けての取り組み

- 1. アンケートの重要性・必要性を学生に伝え、回答率の改善に取り組む.
- 2. 自由記述への記入を促す.
- 3. シラバスの確認、到達目標の確認を行っているが不満という回答がある、視聴覚教材、特に実際の患 者の動画等を用いてわかりやすく話しているが不満という回答がある。この点については自由記述に書き 込みがないため、次年度に向けての解決方法が見出せない。
- 4. 複数の項目に「やや不満」の回答が散見される. この点についても指摘事項に思い当たることは無 く、次年度に向けての解決方策を見出せない。 4'. 一方、質問18に「わわ不達」が1を記せ
- . 一方, 質問18に「やや不満」が1名認められることは看過できない. 次年度講義途中でも確認を行い ながら不満解消に努めたい.

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		身体障害作業療法学 I	39名





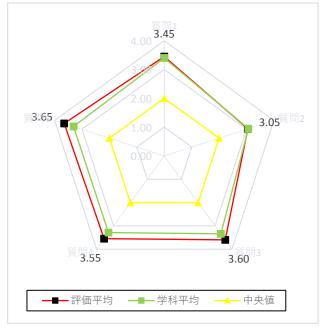
(2) 結果の分析と評価

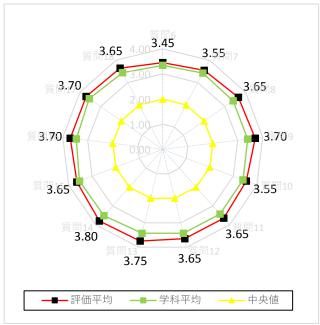
全体的に評価が学科平均的に留まっているおり、さらなる工夫が必要である。授業のスピードや双方向的 やりとりについては常に配慮しているが更なる改善が必要である。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業のスピードや双方向的やりとりについては、今後さらに意識して授業し、全体的な評価が上がるよう 努める。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		運動療法学実習	37名





(2) 結果の分析と評価

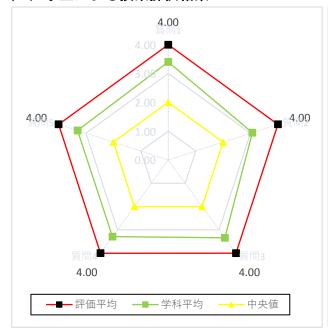
- 1. 回答率は55.6%(20名/36名)
 - 本調査に関して再三学生の協力を求めている現状を勘案すると極めて残念な結果である.
- 2. 総合評価(質問18)で「やや不満」と回答した学生1名.
 - 「自由記述」にコメントがないため分析・評価は困難である.
- 3. 「不満」回答:0名.
- 4. 質問19?質問25への回答者が複数名存在する.

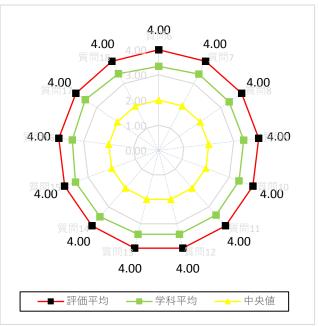
「質問18」?「質問25」には質問を設定していないにもかかわらず複数の回答がある事は非常に残念な結 果である.

(3) 次年度に向けての取り組み

- 1. 回答率の改善に努める.
- 2. 「総合評価」における満足度を高める. 3. 学生に誠実な対応を求める.

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		身体障害作業療法学演習	39名





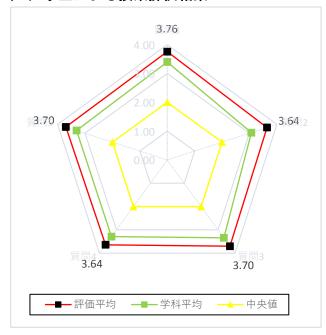
(2) 結果の分析と評価

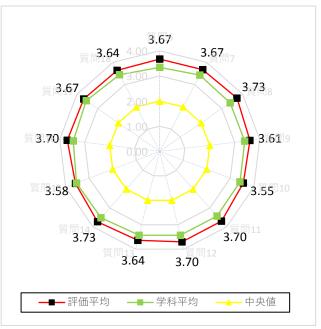
実習や臨床につながる演習になるよう引き続き内容を検討する必要がある。なお、回答者数を増やす必要がある。

(3) 次年度に向けての取り組み

実習や臨床につながる演習になるよう引き続き内容を検討する必要がある。なお、回答者数を増やす必要がある。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		運動器障害理学療法学	39名





(2) 結果の分析と評価

回答率84.6% (33/39)

評価3.67±0.65

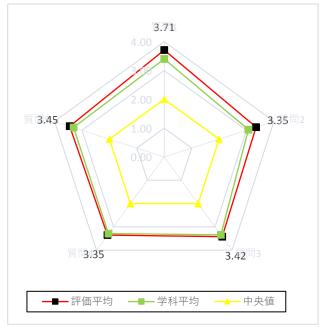
自由記載なしのため詳細な分析はできないが、学科平均を上回る評価であったのでおおむね学生の満足度は高いと推察される。

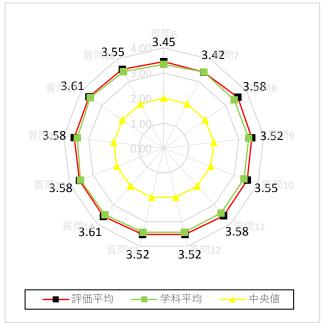
本年度は予習の促しを強化するため、学習内容の事前学習を徹底した。そのための教材として、国家試験 の過去問を課題として課し、その中でどの文章に着目してキーワードを拾っていくかを示し、国試対策に つながるように工夫した。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も事前学習を強化し、講義時間内で理解を十分できるようにしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		精神障害作業療法学 I	42名





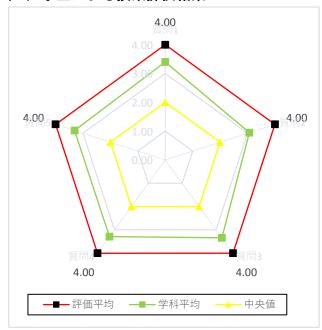
(2) 結果の分析と評価

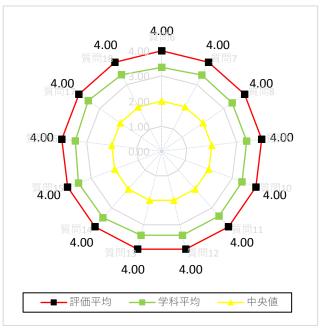
今回,小松先生と分担して講義を行った.学生にとっては,各教員の講義担当内容が分かり難かった部分もあったと思われる.また,それぞれの教員が掲げる到達目標の共有が十分でなかった面も伺える.

(3) 次年度に向けての取り組み

講義担当内容が分かり難かった部分については、連続して講義できるように工夫する. また. また. それぞれの教員が掲げる到達目標を十分に共有し、それぞれの講義内容を検討したい.

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		運動器障害理学療法学実 習	37名





(2) 結果の分析と評価

回答率 8.1% (3/37)

評価 4.00

自由記載 なし

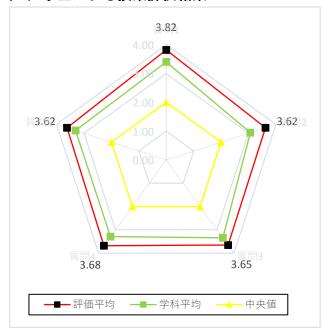
回答率が低く、また自由記載もないため詳細な分析が不可能である。 実習の関係で12月中に講義を終え、そのまま年末年始休→実習となったため学生も入力するタイミングが なかったことも考えられる。

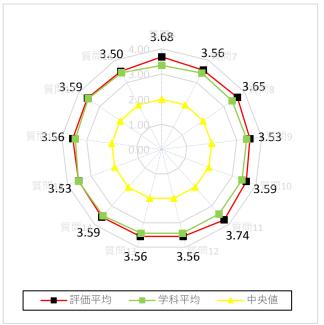
実習終了後に促しが必要であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

臨床実習前の講義であることか、実技を時間を多く確保していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		神経障害理学療法学	37名





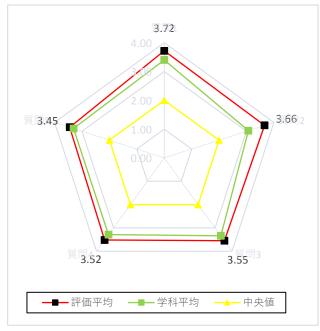
(2) 結果の分析と評価

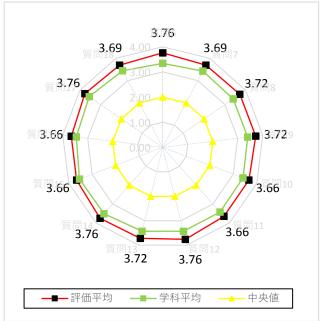
学生自身が講義に臨む態度の評価も、講義に関する評価も高かった。 概ね良好であったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も学生がわかりやすい講義内容になるよう努める。 また、実習の際に活用できるような知識を付与できる講義を心掛ける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		発達障害作業療法学	36名





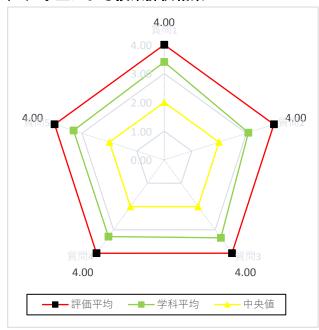
(2) 結果の分析と評価

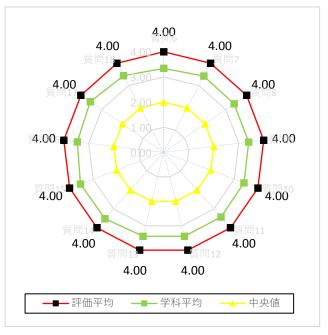
学科平均とほぼ変わらない結果であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

さらに学生がより臨床現場をイメージしやすく、なおかつ知識を身につけられるような授業展開をしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		神経障害理学療法学実習	37名





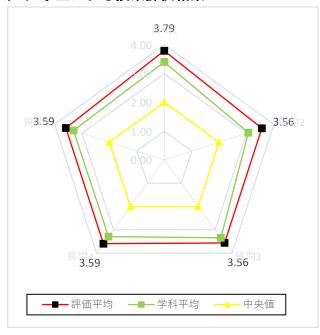
(2) 結果の分析と評価

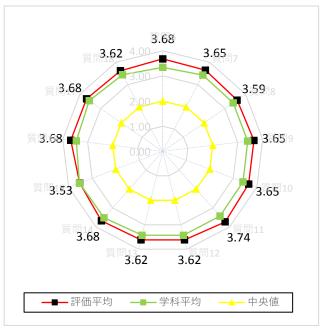
回答者数が少ないため、全体を反映した意見は言いきれない。 回答者に限って言えば、学生自身が講義に臨む態度の評価も、講義に関する評価も高かった。 概ね良好であったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も学生がわかりやすい講義内容になるように努める。 また、臨床実習で活用できるような知識を付与できる講義を心掛ける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		神経障害理学療法学演習	37名





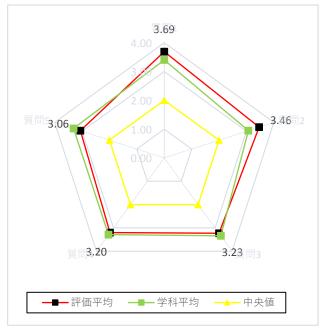
(2) 結果の分析と評価

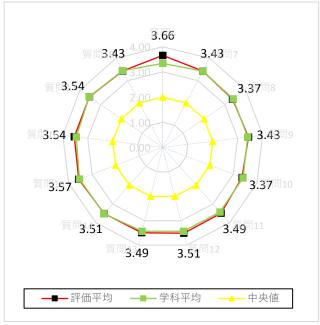
学生自身が講義に臨む態度の評価も、講義に関する評価も高かった。 概ね良好であったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も学生がわかりやすい講義内容になるよう努める。 また、実習で活用できる知識を付与できる講義となるように心掛ける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		老年期障害作業療法学	36名





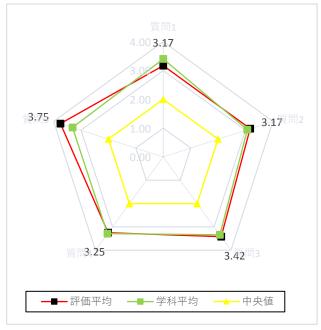
(2) 結果の分析と評価

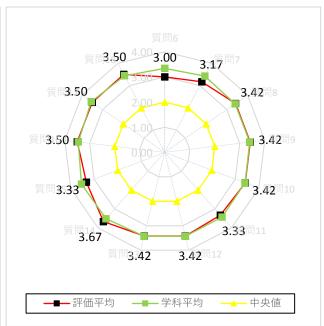
作業療法学専攻平均値と比較した結果、18項目中11項目の値が下回っていた。特に「授業は興味・関心が持てる工夫がされていましたか。」「授業は分かりやすくする工夫がされていましたか。」「教員は双方向的なやり取りをしながら、授業を行っていましたか。」「教員は熱心に授業に取り組んでいましたか。」が低値であった点は、素直に反省すべき点であると考える。この授業を総合評価については、94%(33/35名)がよいと判断した。

(3) 次年度に向けての取り組み

本講義は複数教員が担当するため、講義予定について学生が混乱しやすい。今後は、教員間の連携を密にし授業計画に関する理解につながるようにする必要がある。次年度は上記の課題が改善できるよう授業の工夫等をさらに推進していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		日常生活活動学	37名





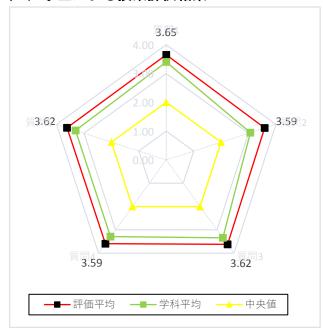
(2) 結果の分析と評価

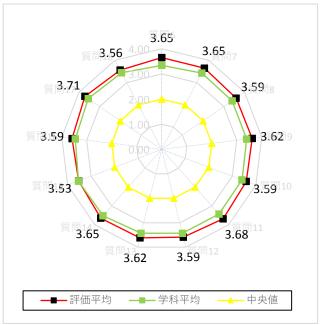
講義の目的を始めに説明しているが、学生には十分伝わっていないことが確認された.

(3) 次年度に向けての取り組み

毎回到達目標を確認したうえでを開始する.

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		内部障害理学療法学	37名





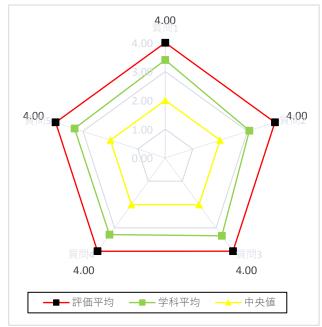
(2) 結果の分析と評価

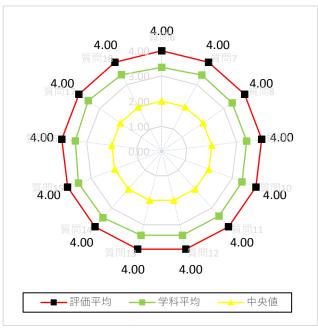
学生自身が講義に臨む態度の評価も、講義に関する評価も高かった。 概ね良好であったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も学生がわかりやすい講義内容になるよう努める。 また、実習の際に活用できるような知識を付与できる講義を心掛ける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		老年期障害作業療法学演 習	38名





(2) 結果の分析と評価

授業評価の回答率が1名と低かった。

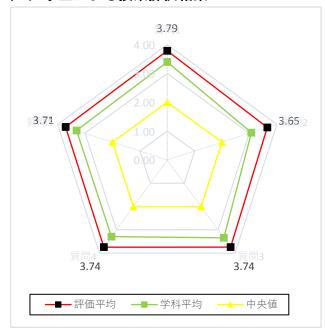
コメントは「わからないことを質問しても丁寧に教えてくださって助かりました。レジュメもこの講義で書かないと書き方もわからなかったと思うので、経験できてよかったです。地域活動も楽しく経験させて頂きました。」であったため、参考にして行きたい.

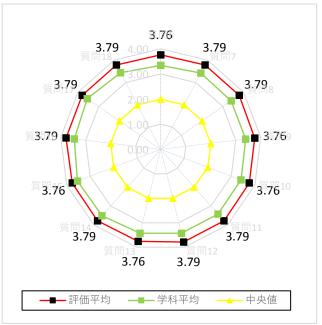
(3) 次年度に向けての取り組み

回答者が1名であった. 原因として1月に3年生が実習に行ってしまうため、授業評価を行う期間が短いと考えられる.

次年度は上記の課題が改善できるよう対応の工夫等をさらに推進していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		発達障害理学療法学	37名





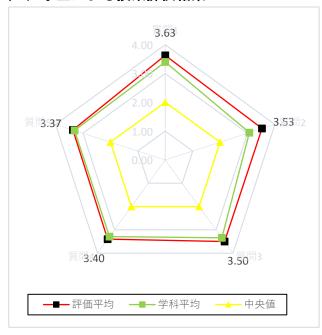
(2) 結果の分析と評価

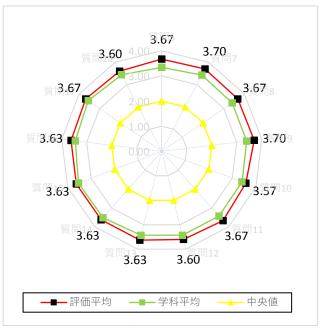
すべての項目においておおむね高評価であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

発達障害は実習で関わらない学生も多く、症例イメージが出来ないまま卒業してしまわないよう、出来る限り視聴覚資料などを使いながら疾患について学修を行っていくよう心掛ける。学生の理解と講義の進行を調整していくことが難しいことが多かったが、学修すべき疾患も多いため、漏れがないようシラバスを活用しながら進めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		高次脳機能障害作業療法 学	38名





(2) 結果の分析と評価

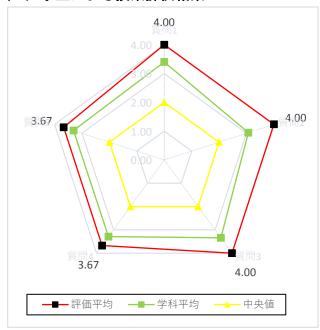
昨年度より高次脳機能機能障害作業療法学演習が開催されず、本科目の講義内容のボリュームがどうして も多くなっている. そのため、学生の自己学習時間や演習時間が必然的に増えてしまった印象である.

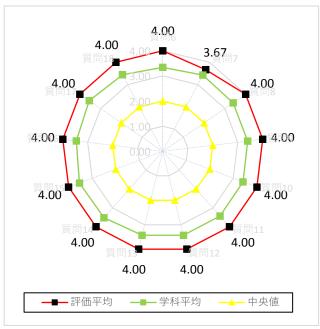
講義内容を整理し国試対策に必要な内容のみにするのか、臨床にて必要な内容を取り込むのか検討する必 要はある.

(3) 次年度に向けての取り組み

2020年度も上記同様、演習時間を多く必要とする状態となることが予測される. またコロナウイルス対策として遠隔講義(テキスト形式)での開催が終始余儀なくされる可能性を考慮 し、内容を再検討する.

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		老年期障害理学療法学	37名





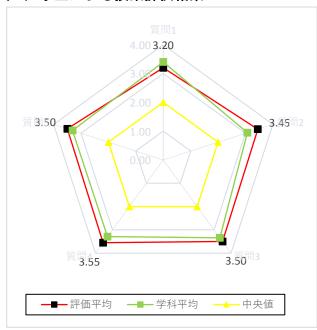
(2) 結果の分析と評価

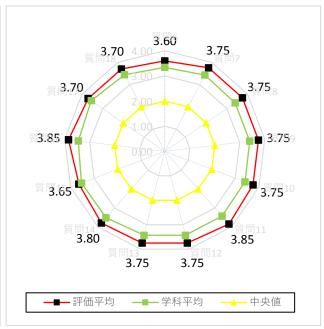
例年、質問6のシラバスについての説明が平均値より下回ったが 今年度は学科平均を上回った。

(3) 次年度に向けての取り組み

新年度も、将来PTとして高齢者の患者様とコミュニケーションを取れるよう 授業の中で祖父母の半生記のレポートの作成・発表の機会を設ける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		義肢装具学	37名





(2) 結果の分析と評価

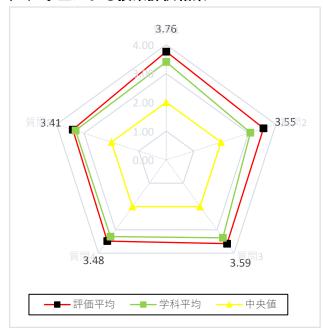
- 1. 回答率は55.6%(20名/36名).
 - 本調査に関して再三学生の協力を求めている現状を勘案すると極めて残念な結果である.
- 2. 総合評価(質問18)に「不満」・「やや不満」と回答した学生:0名.
- 3. 「不満」回答:0名.
- 4. 質問19?質問25への回答者が複数名存在する.

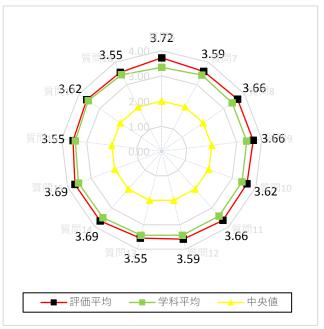
「質問19」?「質問25」には質問を設定していないにもかかわらず複数の回答がある事は非常に残念な結 果である.

(3) 次年度に向けての取り組み

- 1. 回答率の向上に努める.
- 2. 「総合満足度」の向上に努める.
 3. 学生に誠実な対応を求める.

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		日常生活活動学演習	35名





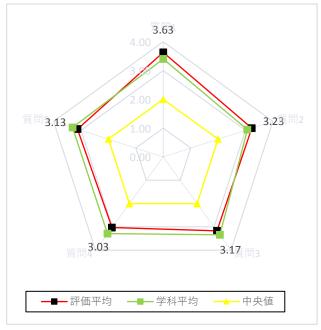
(2) 結果の分析と評価

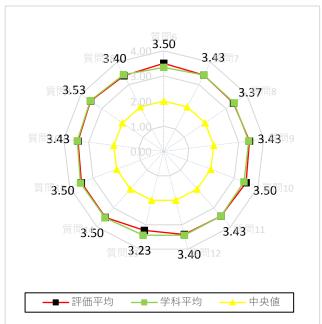
学科平均とほぼ変わらない結果であった。学生が興味を持って講義に参加してくれたのではないか。

(3) 次年度に向けての取り組み

演習項目で臨床に直結する講義であるため、実技のための時間を多くとり臨床のイメージを持ってもらえるよう工夫していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		義肢装具学	36名





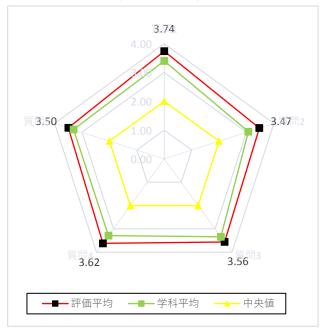
(2) 結果の分析と評価

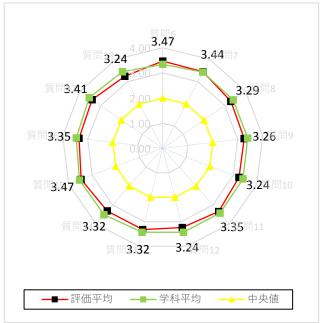
全体的な評価が学科平均に留まっている。今後は特に授業の進むスピードに留意して授業を展開する必要がある。

(3) 次年度に向けての取り組み

特に、授業の進むスピードに留意して、全体的な評価上がるように努める。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		日常生活活動学実習	37名





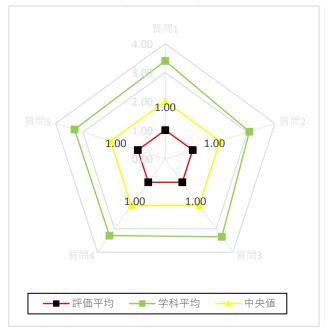
(2) 結果の分析と評価

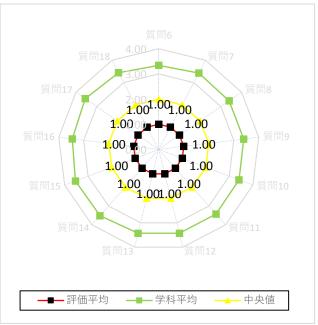
授業への取り組みの学生の自己評価は高かったことが分かったが、それに授業内容が応えきれていない結果となっている.

(3) 次年度に向けての取り組み

実習を中心とした授業であるため、実習の目的をより具体性、必要性をしっかり理解してもらえるように進め方を工夫する.

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		作業療法技術学特論 I	29名





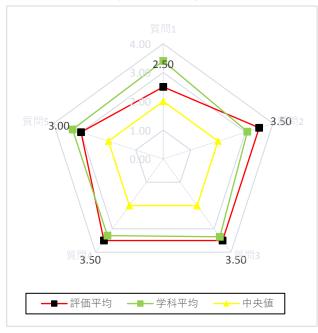
(2) 結果の分析と評価

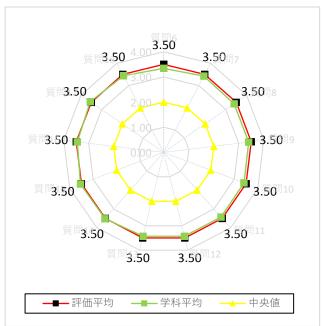
全体的に評価が学科平均を大きく下回っている。次年度に向けて授業内容の再検討が必要である。なお、 回答者数を増やす必要がある。

(3) 次年度に向けての取り組み

全体的に評価が上がるように授業内容の再検討を行い、満足度が高まるよう授業を展開する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法学特論 I	49名





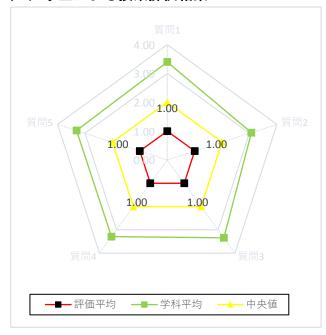
(2) 結果の分析と評価

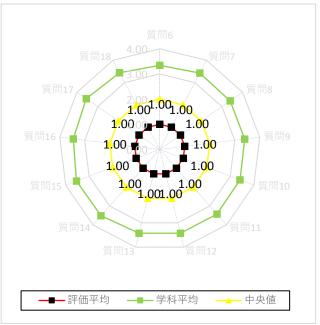
1. 学生1名の回答のため分析および評価は困難である.

(3) 次年度に向けての取り組み

1. 学生にアンケートへの協力を求める.

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		作業療法技術学特論 II	25名





(2) 結果の分析と評価

回答が1名のみで昨年度卒業した学年であるため分析が困難である。

すべての評価が1であるが、解答した学生においては授業の欠席もなく居眠りもしていないため質問1、3 については結果に疑問を感じる。

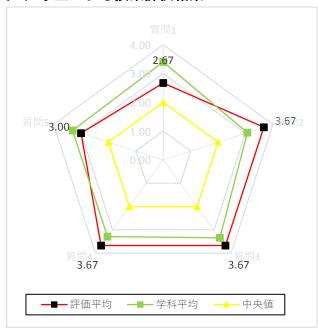
回答数が少ないことに関しては、4年生で卒業や国家試験を控えており教員も学生も余裕がなかったことが考えられる。

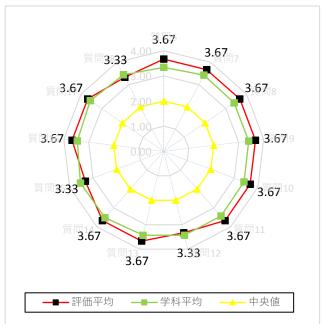
(3) 次年度に向けての取り組み

1名であってもすべての評価が1であるという結果は重く受け止め、次年度は卒業後すぐに使える技術や知識の学修をより強化したいと考える。

また、4年生が通学する時期にアンケートの回答をしてもらえるよう、国試勉強の合間を見計らって解答を促していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法学特論Ⅱ	51名





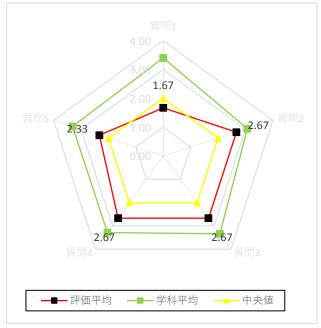
(2) 結果の分析と評価

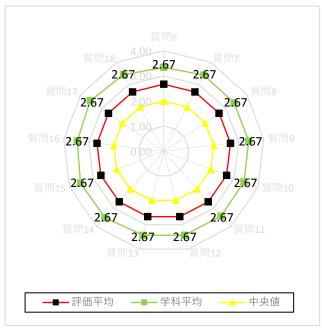
1. 学生1名の回答であるため分析と評価は困難である.

(3) 次年度に向けての取り組み

1. 学生にアンケートへの協力を求める.

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		安全管理運営学	82名





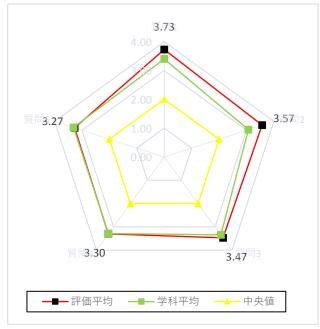
(2) 結果の分析と評価

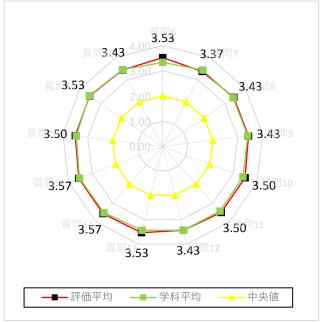
4年生のこの時期(卒業判定・国家試験勉強)にもかかわらず、熱心に講義に参加していたのは大変意義深いと思います。

(3) 次年度に向けての取り組み

出来れば、もう少し早い時期に講義を終了し、卒業判定・国家試験対策に集中できるようにしたいと思います。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		地域作業療法学	36名





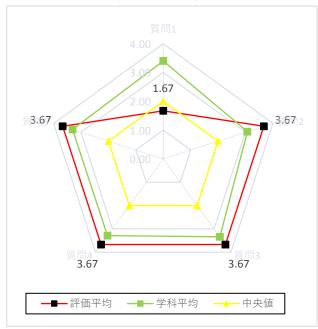
(2) 結果の分析と評価

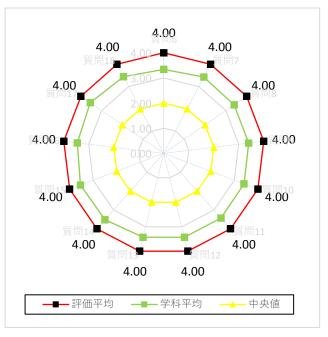
作業療法学専攻平均値と比較した結果、25項目中17項目の値が下回っていた。特に「授業は興味・関心が持てる工夫がされていましたか。」「授業は分かりやすくする工夫がされていましたか。」「教員は双方向的なやり取りをしながら、授業を行っていましたか。」「教員は熱心に授業に取り組んでいましたか。」が低値であった点は、素直に反省すべき点であると考える。この授業を総合評価については、93%(28/30名)がよいと判断した。

(3) 次年度に向けての取り組み

本講義は複数教員が担当するため、講義予定について学生が混乱しやすい。今後は、教員間の連携を密にし授業計画に関する理解につながるようにする必要がある。次年度は上記の課題が改善できるよう授業の工夫等をさらに推進していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		臨床実習I	28名





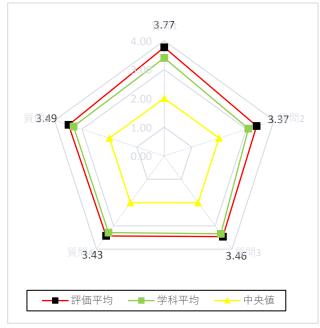
(2) 結果の分析と評価

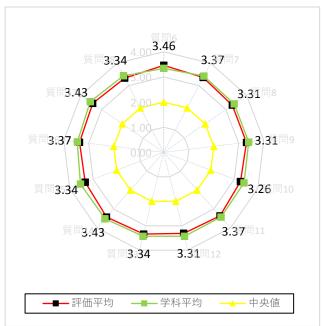
回答者数が少ないため、全体を反映した意見は言いきれない。 回答者に限って言えば、学外実習に関する評価は高かった。 実習後セミナーと資料の確認でフィードバッグは充実している。

(3) 次年度に向けての取り組み

当該学年は来年2月から学外実習に臨む予定である。 今回得た経験を踏まえ、医療専門職としての基礎を築いていってもらう。 また、例年通り実習時の対応と実習後セミナーと資料の確認を行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		地域理学療法学 I	37名





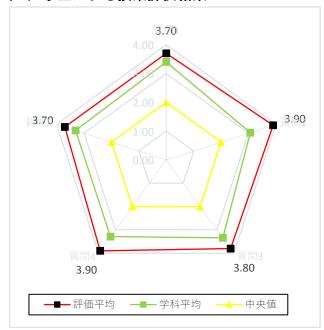
(2) 結果の分析と評価

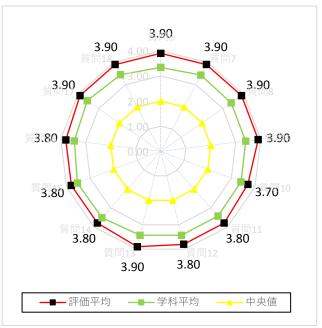
年も全項目で学科平均を上回った。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も地域理学療法学に関する臨床データを紹介させながら知識を増していく講義を行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		臨床実習Ⅱ	37名





(2) 結果の分析と評価

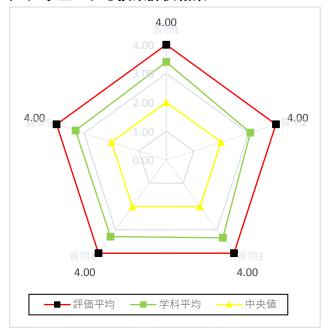
本科目は学外実習であるため、質問内容が合わない項目ばかりであるが、全ての質問項目において、学科

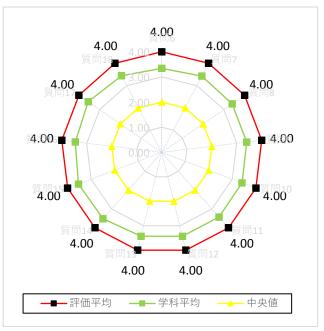
平均以上の結果であった。 学外実習後の別アンケートでは、良好な感想が大多数の学生から寄せられていたため、大変有意義な学外 実習であったことが考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度の臨床実習Ⅲにおいても、今年度同様に実習前オリエンテーション及び実習前後のセミナーを充実 させて、学生のモチベーションを挙げたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		地域理学療法学Ⅱ	37名





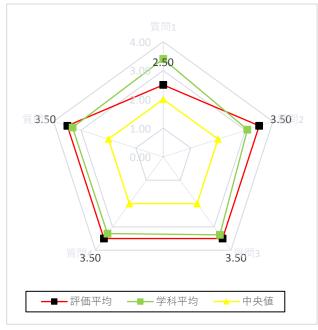
(2) 結果の分析と評価

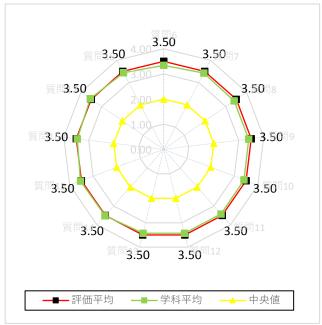
例年、質問6のシラバスについての説明が平均値より下回ったが 今年度は学科平均を上回った。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も、将来PTとして患者様ニーズに答えられるように 在宅サポートセンターでの見学を設ける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		卒業研究	46名





(2) 結果の分析と評価

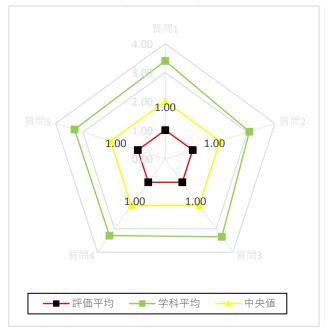
1. 回答率4% (2名/46名) である. 回答率が極めて低い.

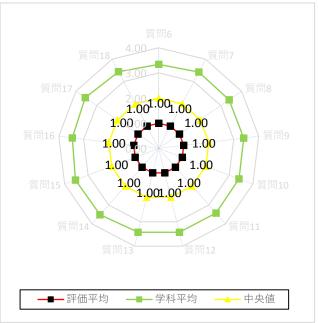
(3) 次年度に向けての取り組み

「卒業研究」は、3年次後期開講の「理学療法学研究法演習」と連続してゼミ単位で行われる. 学生は、ゼミ担当教員の指導の下に主体的に本科目に参加して卒業論文を仕上げている、ゼミ単位で学 生と教員が協働して取り組む科目であるため「学生による授業評価」の対象としての妥当性に疑問があ る. また、その結果、学生の授業評価に対する参加率が低いものと考えられる.

次年度以降,授業評価対象科目として適否に関する再検討が必要と考える.

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		卒業研究	35名





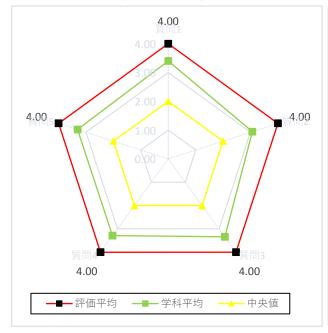
(2) 結果の分析と評価

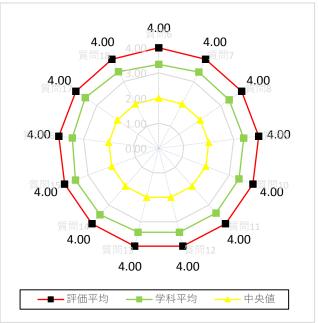
対象学生は全員要旨の作成とプレゼンテーションを実施することができた。

(3) 次年度に向けての取り組み

長期間にわたる研究室教員の指導が必要となるが、学生さんのレベルに即した卒業論文の内容にできるように、自由度をあげたうえで各研究室単位で指導を進めていく。

<u> </u>	全部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテ	ーション学部	リハビリテーション		臨床実習Ⅲ	41名





(2) 結果の分析と評価

全ての項目で学科平均を上回った。

実習前にオスキーを実施することで早期から実習対策を専攻をあげて行う結果、実習皿では11期生37名と留年4名

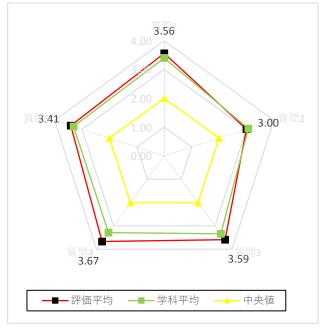
全て合格した。

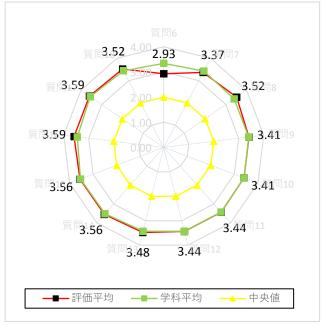
(3) 次年度に向けての取り組み

実習Ⅳは長期実習を2回実施する。

4年間の総合学習を発揮させる場である臨床実習に向けて日々課題を取り組ませている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		臨床実習Ⅳ-1	36名





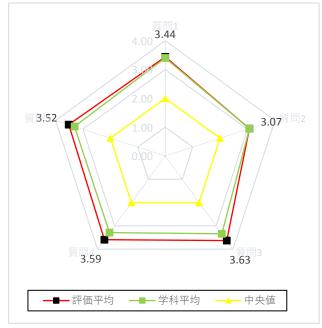
(2) 結果の分析と評価

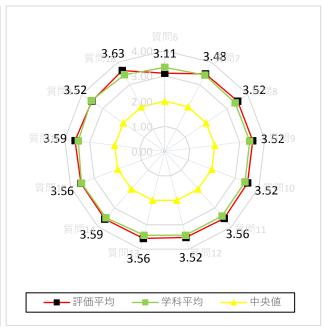
作業療法学専攻平均値と比較した結果、18項目中10項目の値が下回っていた。 本科目は実習のためシラバス関連、視聴覚教材や教科書活用の質問は当然低値を示す。 また本科目は複数教員で対応しているが、「学生の質問等に誠実に対応しましたか。」「公平に学生に 対応しましたか。」が低値であった点は、素直に反省すべき点であると考える。 この授業を総合評価については、92%(25/27名)がよいと判断した。

(3) 次年度に向けての取り組み

本科目は学外実習であり複数教員が担当するため、担当教員間の対応のばらつきがある。また、実質的な指導者は学外の臨床実習指導者のため、授業評価に対する教員コメントがしづらい側面を有している。今後は、教員間の連携を密にし授業計画に関する理解につながるようにする必要がある。次年度は上記の課題が改善できるよう対応の工夫等をさらに推進していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		臨床実習Ⅳ-2	36名





(2) 結果の分析と評価

作業療法学専攻平均値と比較した結果、18項目中5項目の値が下回っていた。しかしながら臨床実習IV-1と比較し5項目は平均を上回った。

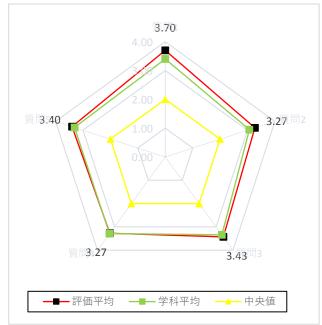
本科目は実習のためシラバス関連の質問は当然低値を示す。

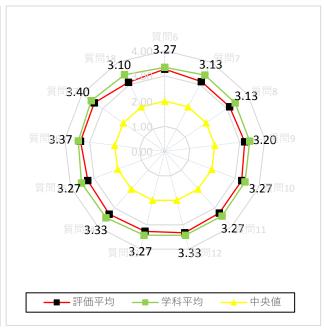
また本科目は複数教員で対応しているが、「公平に学生に対応しましたか。」「教員は熱心に授業に取り組んでいましたか。」が低値であった点は、素直に反省すべき点であると考える。この授業を総合評価については、92% (25/27名) がよいと判断した。

(3) 次年度に向けての取り組み

本科目は学外実習であり複数教員が担当するため、担当教員間の対応のばらつきがある。また、実質的な指導者は学外の臨床実習指導者のため、授業評価に対する教員コメントがしづらい側面を有している。今後は、教員間の連携を密にし授業計画に関する理解につながるようにする必要がある。次年度は上記の課題が改善できるよう対応の工夫等をさらに推進していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		作業療法学研究法	35名





(2) 結果の分析と評価

本講義は、今年度より授業時間が8時間に短縮された科目である。また、本講義を受講するために必要な基礎知識である「医療統計学」や「医療英語」などの選択科目をほとんどの学生が履修していないという状況での大変困難な授業となった。

専攻をあげて、学生さんの基礎学力の向上を目指したいところであるが、対象学生の学力自体の問題もあるため更なる創意工夫が必要であると感じたられた。

また、アクティブラーニングによるチームでのプレゼンテーションは、しっかり対応した学生さんとあまり活躍できなかった学生さんがどうしても存在するため、少ない講義時間をさらに工夫して、学生さんがプレゼンテーションにより関わらないといけないような方向で改善が必要と考えられる。

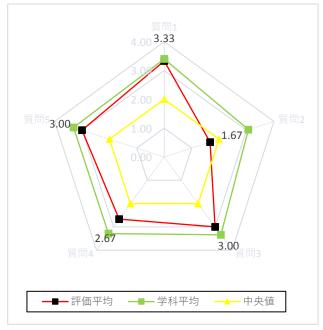
本科目は、国家試験に関係ない必修科目であるため、学生さんの興味を引く工夫もさらに必要であろう。

(3) 次年度に向けての取り組み

「医療統計学」や「医療英語」の未履修者が極端に増えてきたことを踏まえて、何も基礎知識がない学生さんが研究法を学ぶという視点で講義内容を工夫していきたい。具体的には、統計はデータを入れるだけのソフトを提供したり、HPを紹介し、深く理解していもらうという本来の研究法のポリシーをまげて対応する。また、医療英語は講義で必要最小限用いるものの、小テストなどには活用しないことにするなどである。

全員がプレゼンテーション作成に密に関わり参加するために、グループを2-4名の少人数にするなどの工夫を行い、個人個人の成果が明確に表れるようにしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法総合演習	8名





(2) 結果の分析と評価

再履修クラスである.

- 1. 回答率が37.5%(3人/8人]と極めて悪い.

- 2. 自由記述に記載は無い.
 3. 各項目に「不満」 [やや不満] が多い.
 4. 一方, 各項目に「満足」と答えたものがおり, 回答が二極化している.
 5. 質問18は「満足」「やや満足」「不満」が各1名となっている.

(3) 次年度に向けての取り組み

前期卒業の可能性を残すために、後期科目の再履修クラスである。 次年度の開講〔科目設置〕に関しては、対象者がいれば、上記アンケート結果を参考に検討したい、